

5577-M01 / 5577-M03 / 5577-M05

TN5250E機能 設定ガイド



第2版 2025年7月

- 本書はそれぞれのOSにあわせて注意深く用意しておりますが、将来バージョンアップやOSに変更のあった場合など、パソコンのモニターに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- 本書に記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。

- IBM、IBM i、System z、i5/OS、System i は IBM Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows 等は米国 Microsoft Corporation の米国及び他の国における登録商標です。
- その他、記載されている社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

© Copyright JBCC Corporation 2019-2025.

はじめに

本書は、本製品に搭載されているTN5250E機能について説明します。本書は、本プリンターを設置する導入担当者および操作員の方々を対象にしております。

本書は次のように構成されています。

第1章 『IBM i (IBM System i, AS/400) との接続』

IBM i (IBM System i, AS/400) に接続し、印刷する方法について説明します。

第2章 『論理プリンター』

論理プリンター機能を使用した、プリンターの使い分け方法について説明します。

第3章 『ユーザーフォントの登録』

IBM i のユーザーフォントを登録する方法について説明します。

関連マニュアル

装置本体の設定、およびネットワークに関する設定を行う場合には、次のマニュアルを必要に応じて参照してください。

- 設置・操作ガイド
- ネットワーク設定ガイド



- 使用環境によっては、以下で説明している導入手順と異なる場合があります。

目次

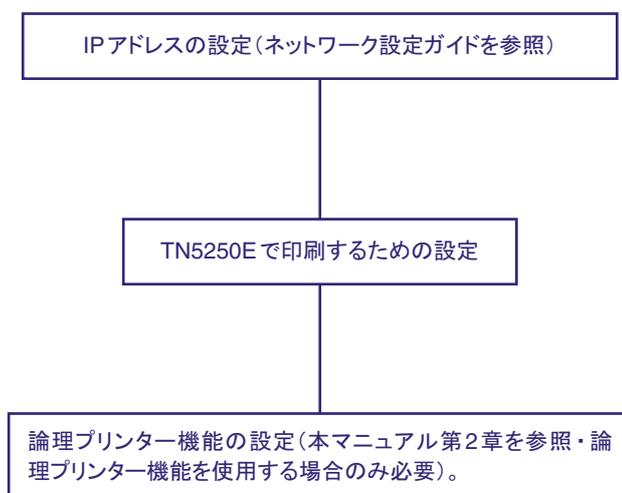
| | |
|--|------------|
| はじめに | iv |
| 関連マニュアル | iv |
| 第1章 IBM i (IBM System i, AS/400) との接続 | 1-1 |
| 接続の前に | 1-1 |
| 接続の流れ | 1-1 |
| TN5250E 設定手順概要 | 1-2 |
| TN5250E 自動構成 | 1-3 |
| IBM i 環境確認 (自動構成) | 1-3 |
| 自動構成におけるIBM i の設定 | 1-4 |
| TN5250E 手動構成 | 1-5 |
| IBM i 環境確認 (手動構成) | 1-5 |
| 手動構成におけるIBM i の設定 | 1-6 |
| Webブラウザでのホスト接続機能設定 | 1-9 |
| プリンターの電源をオフする前に | 1-14 |
| TN5250E パラメーター説明 | 1-15 |
| TN5250Eメッセージ一覧 | 1-19 |
| 第2章 論理プリンター | 2-1 |
| 論理プリンター概要 | 2-1 |
| 印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法 | 2-1 |
| 第3章 ユーザーフォントの登録 | 3-1 |
| ユーザーフォント登録手順 | 3-1 |
| ホストからのユーザーフォント登録 | 3-4 |
| ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する | 3-4 |

第1章 IBM i(IBM System i, AS/400)との接続

接続の前に

IBM i (IBM System i, AS/400) から印刷する方法として、TN5250E (TCP/IP) をサポートしています。

接続の流れ



Important
重要

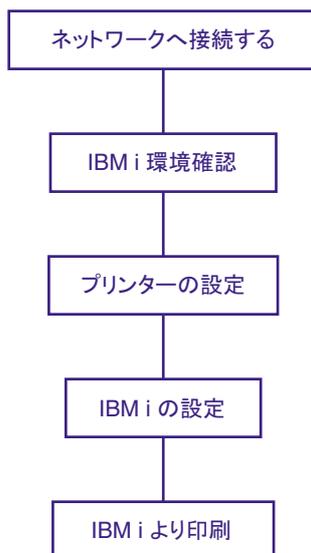
- 本製品でのTN5250E IBM i 接続は、i5/OS (OS/400) V5R3以降で最終のPTFを適用の上で使用することをお勧めします。
- ネットワークインターフェースと、USBインターフェースは同時に使用することはできません。
- USBインターフェースを使用した後に、本製品のTN5250E IBM i 接続機能を使用する場合は、プリンターの電源を一度、入れなおしてください。

TN5250E 設定手順概要

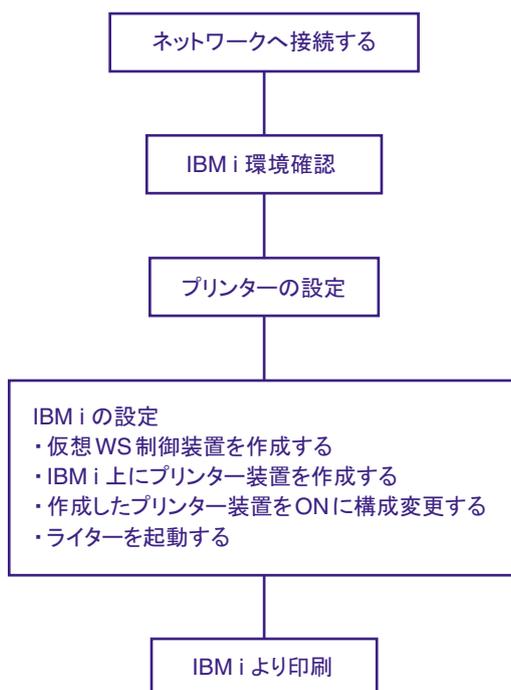
TN5250E環境における基本的なインストールは2つの方法があります。

- IBM iの自動設定機能に基づくセットアップ
- IBM iの設定を手動で行うセットアップ

IBM iの自動設定機能に基づくセットアップ概要（自動構成）



IBM iの設定を手動で行うセットアップ概要（手動設定）



TN5250E 自動構成

IBM i 環境確認（自動構成）

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、IBM iの自動構成機能を使用してIBM iを構成する場合、IBM i環境で確認およびメモすべき一覧です。

| 項目 | コマンド | 確認・メモ内容 |
|--------------|--------------------|---------------------|
| 仮想装置数 | WRKCTLD *VWS | |
| QAUTOVRT | DSPSYSVAL QAUTOVRT | 構成された仮想装置の数より大きいこと。 |
| IBM iのIPアドレス | WRKTCPSTS *IFC | |

以下に具体的な手順を示します。

1. IBM iのコマンドライン "WRKCTLD *VWS"を実行し、自動構成された仮想装置の数を把握します。
数を確認後、F3 キーを押して終了します。
2. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行します。
QAUTOVRTパラメーターの数が1.で確認した仮想装置の数より大きいことを確認します。F3 キーを押して終了します。
QAUTOVRTの値が小さい場合、値を大きくするか、不要な仮想装置を削除してください。
3. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行して、IBM iのIPアドレスを確認します。
IBM iに有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定します。IBM iにIPアドレス設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



- TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係しません。

自動構成におけるIBM i の設定

基本的には、IBM i 側の設定は不要です。

本製品のパラメーターを設定し、IBM i とのセッションが確立されると、必要な記述が自動構成されます (5553の自動作成)。

1. IBM i 構成状況を確認します。

WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL) コマンドにて、パラメーターに設定したデバイス名を確認すると、以下の表示になります。

```
                                構成状況処理
                                S103ZT8M
                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
  1= オンへの構成変更      2= オフへの構成変更      5= ジョブ処理      8= 記述の処理
  9= モード状況の表示      13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                -----ジョブ-----
    QQAHOST                オフに構成変更
    QVIRCD0001            活動状態
    :
    77CTN5250A            活動状態/書出  PGM    77CTN5250A  QSPLJOB    143287
    :
                                                    続く...

パラメーターまたはコマンド
==>
F3= 終了   F4=プロンプト   F12= 取り消し   F23 =オプション続き   F24= キーの続き
```

2. IBM i からテスト印刷を実行します。

プリントジョブを送ります。

最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに応答してください。

TN5250E 手動構成

IBM i 環境確認（手動構成）

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、IBM i を手動で構成する場合、IBM i 環境で確認・メモすべき一覧です。

| 項目 | コマンド | 確認・メモ内容 |
|---------------|--------------------|---------|
| QAUTOVRT | DSPSYSVAL QAUTOVRT | 0であること |
| IBM i のIPアドレス | WRKTCPSTS *IFC | |

確認の具体的な手順を以下に示します。

1. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行し、QAUTOVRTパラメーターの数が0であることを確認します。
QAUTOVRTの値が0ではない場合、プリンター装置が自動構成されますので、一時的に0にしてください。
2. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行し、IBM i のIPアドレスを確認します。
IBM i に有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定してください。IBM i にIPアドレスが設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



- TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係ありません。

手動構成におけるIBM i の設定

設定を開始する前に、ネットワーク詳細印刷を出力しておくことをお勧めします。ネットワーク詳細印刷の出力方法は、ネットワーク設定ガイド 第1章「ネットワーク設定の内容確認」を参照してください。

仮想WS制御装置の作成

1. コマンド"CRTCTLVWS"を実行して、仮想WS制御装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように選択してください。

制御装置記述：使用する制御装置の名称を決めて入力してください。

例：

仮想ワークステーション・コントローラの記述の作成例です。

| 制御装置記述の作成（仮想WS） | | （CRTCTLVWS） | |
|---|-------|-------------|----------------|
| 選択項目を入力して、実行キーを押してください。 | | | |
| 制御装置記述 | | > | QVIRCD0001 名前 |
| IPL 時のオンライン | | > | *YES *YES, *NO |
| テキスト記述 | | > | *BLANK |
| | | | 終り |
| F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター F12= 取消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き パラメーターCTLDが必要である。 | | | |

仮想WS制御装置が既に作成されている場合は、新規に作成する必要はありません。
既存の仮想WS制御装置も使用できます。

2. コマンド"CRTDEVPRT"を実行して、プリンター装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように設定してください。

装置記述 : 装置の名称を入力します。
ただし、「手動構成におけるプリンターの設定」手順3.で設定したデバイス名と同一でなければいけません。

装置クラス : *VRT

装置タイプ : 5553

装置形式 : B01

接続される制御装置 : 手順1.で作成した仮想WS制御装置 (QVIRCD000x) を設定します。

DBCS機能の装置の機構 : 2424J2

例:
プリンター装置の記述の作成例です。

| 装置記述の作成 (印刷装置) (CRTDEVPRT) | | |
|----------------------------|--------------|-------------------------------|
| 選択項目を入力して、実行キーを押してください。 | | |
| 装置記述 | > 77CTN5250M | 名前 |
| 装置クラス | > *VRT | *ANYNW, *FAX, *FR, *IDLC... |
| 装置タイプ | > 5553 | 3287, 3812, 4019, 4201... |
| 装置型式 | > B01 | 0, 1, 2, 3, 4, 10, 13, 200... |
| IPL 時のオンライン | > *NO | *YES, *NO |
| 接続される制御装置 | > QVIRCD0001 | 名前 |
| フォント: | | |
| 識別コード | > 3 | 3, 5, 11, 12, 13, 18, 19... |
| ポイント・サイズ | > *NONE | 000.1-999.9, *NONE |
| 用紙送り | > *TYPE | *TYPE, *COUNT, *CUT, *AUTOCUT |
| 区切り用紙入れ | > *FILE | 名前 |
| セパレーター・ファイル | > *NONE | 名前, *NONE |
| ライブラリー | > | 名前, *LIBL, *CURLIB |
| 印刷装置エラー・メッセージ | > *INQ | *INQ, *INFO |
| 続く... | | |
| F3= 終了 | F4=プロンプト | F5= 最新表示 |
| F24= キーの続き | F12= 取消し | F13= この画面の使用法 |

3. IBM i のディスプレイセッションで、WRKCFGSTS コマンドを使用して、手動で作成したプリンター装置をオンへ構成変更 (VARY ON) します。
4. コマンド "WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL)" で、IBM i 構成状況を確認します。
ここまでの作業の結果、1台のプリンターでは、下記のような構成状況になります。

```

                                構成状況処理
                                                                S103ZT8M
                                                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
  1= オンへの構成変更  2= オフへの構成変更  5= ジョブ処理    8= 記述の処理
  9= モード状況の表示 13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                ----- ジョブ-----
      QQAHOST            オフに構成変更
      QVIRCD0001         活動状態
      :
      HOSTNETIP         活動状態/書出PGM  HOSTNETIP  QSPLJOB  143287
      :
                                                                続く...

パラメーターまたはコマンド
===>
F3= 終了   F4=プロンプト   F12= 取消し   F23= オプション続き   F24= キーの続き

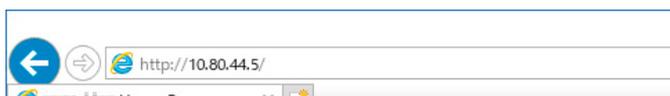
```

5. ライターを起動します (STRPRTWTR コマンド)。
6. IBM i からテスト印刷を実行します。
ライター起動後の最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに応答してください。

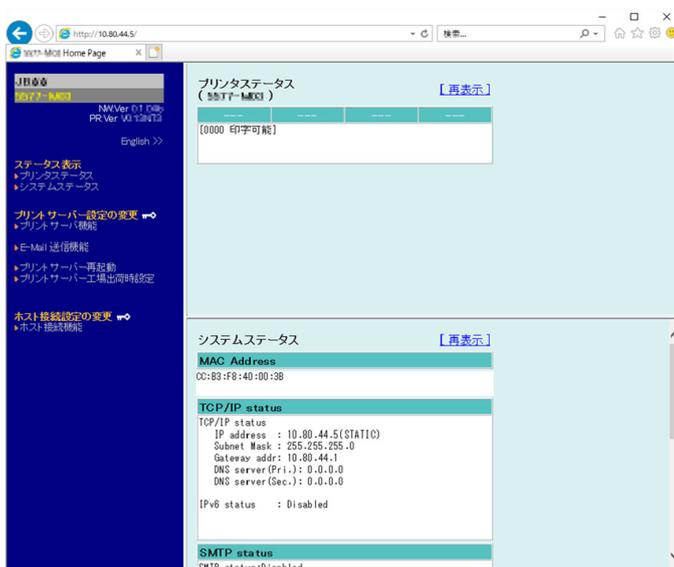
Webブラウザでのホスト接続機能設定

ホスト接続機能は、プリンターのWebページから設定できます。以下に手順を示します。
Webブラウザでの設定方法に関しては、「ネットワーク設定ガイド」も併せて参照してください。

1. WebブラウザのURL入力部分に、「http://IPアドレス」を入力します。
以下はInternet Explorerで10.80.44.5のIPアドレスをもつプリンターにアクセスするケースです。



アクセスすると本製品のWebページが表示されます。



2. 「ホスト接続機能」をクリックすると、以下のように表示されます。



- 設定を行う場合、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
ユーザー名：root
パスワード：（環境設定で設定した文字列。設定していない場合は入力する必要はありません）
で「OK」をクリックしてください。



セッション1～4にてTN5250を使用するセッションの設定値をOFFから5250へ変更してください。

工場出荷値：

セッション1 OFF
セッション2 OFF
セッション3 OFF
セッション4 OFF
外字モード 4370
内部トレース OFF
セッション・タイムアウト(秒) 0
キープアライブ設定 ENABLE
キープアライブ時間(分) 3

3. [セッション1]～[セッション4]のうち、2.で「5250」を選択したものをクリックします。以下のような画面が表示されますので、それぞれのセッション設定を行います。

| 項目名 | 設定値 | 設定できる値 |
|------------|--------------|-------------------------|
| 接続先 | 10.80.44.106 | IPアドレス、又はホスト名(最大78文字) |
| 接続ポート番号 | 23 | 23または、1025 - 65535 の整数値 |
| 自動再接続 | ON | 一覧より選択 |
| 装置名称 | GAJL | 10文字以下の文字列 |
| メッセージ待ち行列 | QSYSOPR | 10文字以下の文字列 |
| メッセージライブラリ | *LIBL | 10文字以下の文字列 |
| ホストコードページ | ISO | 一覧より選択 |
| 自動改行 | ON | 一覧より選択 |
| トラクタモード | OFF | 一覧より選択 |
| SI/SOの拡大動作 | OFF | 一覧より選択 |
| ATRNMモード | Subcommand | 一覧より選択 |
| 出力先印刷ポート | 1st | 一覧より選択 |
| ジョブ毎設定 | ON | 一覧より選択 |
| 機器登録外字の使用 | NO | 一覧より選択 |
| フライングセッション | 0x0000 | 0000 - FFFF の16進数値 |

接続先IPアドレス：(IBM iのコマンド "WRKTCPCSTS *IFC"で確認したIPアドレス)
装置名称：プリンター装置の名称に設定します。

その他、「TN5250E パラメーター説明」を参照し、必要であれば他のパラメーターを変更します。



- パラメーターのうち、「ホストコードページ」の設定は、IBM iの設定と合わせてください。「ホストコードページ」の設定が一致していないと、半角カナ文字を印刷する際に文字化けが発生します。

4. 変更後に「設定更新」ボタンを押し、変更したパラメーターを保存します。「設定更新」ボタンを押すと、次の画面に切り替わります。すべての設定を終了する場合は6.に進んでください。他のパラメーターを設定する場合は「No」をクリックし、引き続き設定を行います。

変更内容は登録されました。
有効にする為にはプリントサーバーの再起動が必要です。
他の設定を続けて行う場合は、Noを選択してください。
再起動しますか？

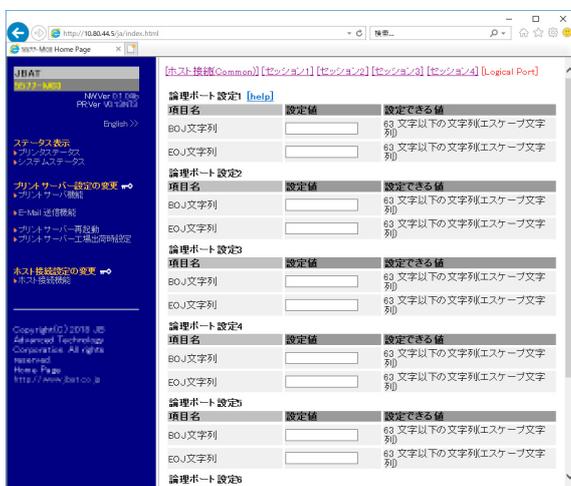
再起動中は通信ができなくなります。ご注意ください。
再起動後は接続されているプリンターの電源を入れ直してください。

Yes No



- 他の設定タブに移動すると、設定値は記憶されませんので、各々の設定タブで「設定更新」してください。新しい設定を有効にするためには、プリントサーバーの再起動が必要です。

5. 5250を選択したセッション1～4の設定で出力先印刷ポートとしてlp1～lp6を指定した場合、対応する論理ポート1～6において必要な設定を行います。
 プリントサーバー機能の [Logical Port] をクリックすると以下のように表示されます。



第2章「論理プリンター」を参照し、必要な設定を行ってください。
 変更後は、フレーム下の「設定更新」ボタンを押し、変更したパラメーターを保存します。

6. 全ての設定が完了したら、プリントサーバー再起動確認画面で「Yes」をクリックします。



- プリントサーバーを再起動する場合は、必ず印刷が完了している事を確認してください。印刷中に本製品を再起動させると、再起動後正常に動作しない場合があります。

7. 再起動が実行されると、次の画面に切り替わります。

プリントサーバーが再起動した後、画面が移らない場合は、再読み込みしてください。

プリンターの電源をオフする前に

プリンターの電源をオフする際に、以下の手順でセッションの切断作業をおこないます。

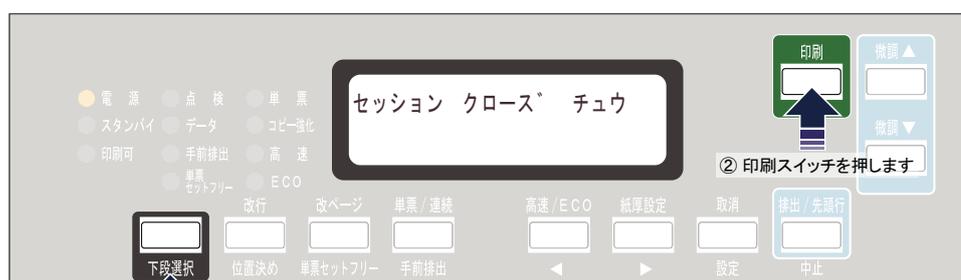


- 印字の途中で、この操作はおこなえません。取消スイッチで印刷を取り消した後、この操作をおこなってください。

1. 印刷スイッチを押して、プリンターを印刷不可状態にします。



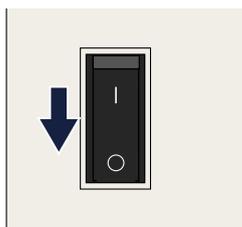
2. 下段選択スイッチを押しながら印刷スイッチを押します。



① 下段選択スイッチを押したまま

「セッション クローズ チュウ」と表示されます。

しばらく経つと、「パワー OFFシテクダサイ」と表示されますので、プリンターの電源をオフにします。



- 表示部に「パワー OFFシテクダサイ」と表示されている状態では、プリンターは一切動作しません。

TN5250E パラメータ説明

TN5250Eを使用して印刷する際、WebブラウザまたはTelnet上で設定しなければならないパラメータの一覧です。

ホスト接続共通設定

1. 外字モード

外字の登録文字数を選択します。
本プリンターでは必ず「4370」にします。

工場出荷値：4370



- 1880を選択した場合、1880文字以降の外字は使用できません。

2. 内部トレース

ホストコマンドトレースを採取するか否かを選択します。

工場出荷値：OFF（採取しない）

3. セッションタイムアウト

セッションタイムアウト機能は現在のセッションの印刷完了後、設定された時間の間、他のセッションからの印刷を保留にすることで、同じセッションの印刷を連続的に行えるようにする機能です。
セッション間のタイムアウト時間を秒単位で設定します。

設定範囲：0秒～60秒

工場出荷値：0秒



- 0秒を設定した場合は、セッションタイムアウト機能が無効となります。

4. キープアライブ設定

キープアライブパケットの送出動作の有無を設定します。
DISABLEが設定された場合は、キープアライブパケットの送出動作を行いません。

工場出荷値：ENABLE（キープアライブパケットを送出する）

5. キープアライブ時間（分）

キープアライブパケットの送出動作を「キープアライブ時間」で設定された時間の間隔で行ないます。

設定範囲：2分～120分

工場出荷値：3分

TN5250E (ホスト接続共通設定にて5250を選択したセッションをクリック)

1. 接続先

接続先ホストをIPアドレス、またはホスト名で指定します。

工場出荷値 : 0.0.0.0



- 5250ホストIPアドレス値が0.0.0.0の状態、または空の場合は、接続動作を行いません。
- ホスト名で接続する場合、DNS設定が必要になります。

2. 接続ポート番号

TCP/IPのポート番号を指定します。

設定範囲 : 1 ~ 65535までの整数値

工場出荷値 : 23

3. 自動再接続

接続が切断された後、プリンター側から自動的に接続要求を発行します。

工場出荷値 : ON (再接続する)

4. 装置名称

印刷装置のデバイス名 (DEVNAME) を定義します。半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値 : なし



- 装置名称の使用可能文字には、以下の制限があります。
1文字目 : A ~ Z, @, #, \$
2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _, .

5. メッセージ待ち行列

プリンターの操作メッセージが送られる先の待ち行列の名前 (MSGQNAME) を定義します。

半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

メッセージ待ち行列はディスプレイ装置ごとに存在し、ディスプレイ装置自身と同じ名前が割り当てられます。

ここでディスプレイ・セッションの名前を指定した場合には、メッセージはデフォルト値待ち行列ではなく、そのディスプレイ・セッションに送られます。

工場出荷値 : QSYSOPR



- メッセージ待ち行列の使用可能文字には、以下の制限があります。
1文字目 : A ~ Z, @, #, \$
2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _, .

6. メッセージライブラリ

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前 (MSGQLIB) を定義します。
半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値 : *LIBL



- メッセージライブラリの使用可能文字には、以下の制限があります。
1文字目 : A ~ Z, @, #, \$
2文字目以降 : A ~ Z, 0 ~ 9, @, #, \$, _, .

7. ホストコードページ

1バイト文字のコードテーブルを指定します。設定値は以下の通りです。

930 : 英数カナ拡張。英大文字、英小文字と半角カナが印字されます。

931 : 英数小文字。英大文字と英小文字が印字されます。半角カナは印字されません。

939 : 英数小文字拡張。英大文字、英小文字と半角カナが印字されます。

工場出荷値 : 939

8. 自動改行

SCS SHFコマンドで指定される最大印刷桁数 (MPP) を有効とするか無効とするかを選択します。

工場出荷値 : ON (MPPは有効)

9. トラクタモード

ON : ページ境界で改行が送られます。

OFF : ページ境界で改ページが送られます。

工場出荷値 : OFF

10. SI/SOの拡大動作

SI/SOモード制御コードが、文字拡大指定範囲に含まれたときに拡大修飾の影響を受けるか受けないかを選択します。

工場出荷値 : ON



- 印字結果をIBMの装置と同一にするためには、以下のような関係があります。
IBM5227 : 影響を受けない
IBM5327 : 影響を受ける

11. ATRNモード

APWで書式合成 (MRGAPW) を行う際、印刷装置タイプ (DEVTYPE) へ *PAGESが指定されたときに IBM i から送出される印刷データストリームのフォーマットと合致するものを選択します。

選択可能値 : Continuous
Subcommand

工場出荷値 : Subcommand

12. 出力先印刷ポート

論理プリンターを経由してプリンターへ印刷データを送出する場合、lp1～lp6のどれかを選択します。
論理プリンターについては、第2章「論理プリンター」を参照してください。

工場出荷値：lp1

13. ジョブ毎設定

「ON」にするとジョブ毎に印字幅、ページ長、文字ピッチ、行ピッチの初期設定値を送ります。

工場出荷値：ON

14. 機器登録外字の使用

TN5250E内のユーザーフォントを使用するか、プリンター本体内のユーザーフォントを使用するかを選択します。

本プリンターでは必ず「NO」にします。

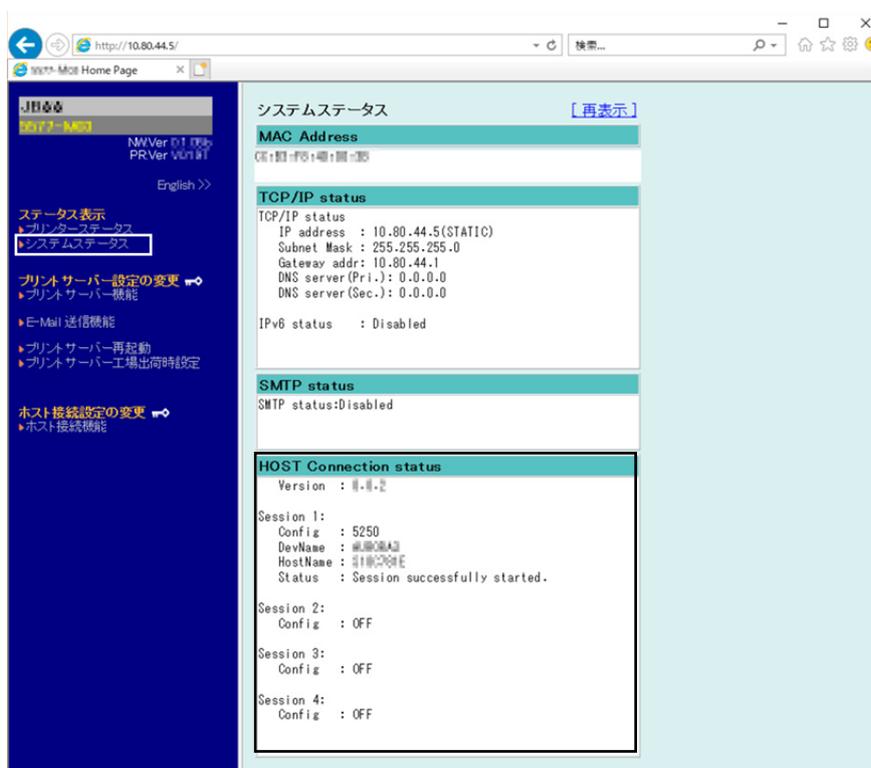
15. ファンクション

0：予約

工場出荷値：0

TN5250Eメッセージ一覧

各セッションの5250を選択すると、Webブラウザ表示の「HOST Connection status」部分にメッセージが表示されます。



接続状態遷移状況

| メッセージ | 内容 |
|--|---|
| "Idle, not connected." | ホストとの接続をしていない状態です。(初期状態) |
| "Connecting..." | ホストへの接続を行っている状態です。 |
| "Unexpectedly disconnected, wait reconnect." | ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOnのとき表示され、一時待機状態に入ります。 |
| "Unexpectedly disconnected." | ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOffのとき表示されます。 |
| "Firmware broken." | 回復不能な内部エラーが発生しました。 |

ジョブ処理状況

| メッセージ | 内容 |
|---------------------------|---|
| "Session idle." | ホストと接続状態で、現在印字を行っていません。 |
| "Wait printer available." | ホストからのジョブ開始を受けてプリンターポートの獲得を待っている状態です。ホストには場合によってNot Ready (C900030251) が通知されます。 |
| "Printing." | 印刷実行中です。 |
| "Clear command received." | CLEARコマンドを受信したときに表示されます。 |
| "Not Ready." | 印刷中にプリンターがDeselect状態になりました。ホストにはNotReady (C900030251) が通知されます。 |
| "Graphic check." | 印字不能文字を受信しました。ホストにはGraphicCheck (C900030226) が通知されます。 |
| "Machine check." | エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck (C900030211) が通知されます。 |
| "Machine check 1." | エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck1 (C900030286) が通知されます。 |
| "Machine check 2." | エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。ホストにはMachineCheck2 (C900030287) が通知されます。 |

接続開始状態（ホストからの通知）

| メッセージ | 内容 |
|--|-----------------------------|
| "Virtual device has less function." | 機能制限つきで接続を開始します。 |
| "Session successfully started." | 通常の接続を開始します。 |
| "Device description not found." | 装置記述が見つかりません。 |
| "Controller description not found." | 制御装置記述が見つかりません。 |
| "Damaged device description." | 装置記述が破損しています。 |
| "Device not varied on." | 装置を有効にできません。 |
| "Device not available." | 装置は使用可能な状態にありません。 |
| "Device not valid for session." | 装置はこの接続には正しくありません。 |
| "Session initiation failed." | セッションの開始に失敗しました。 |
| "Session failure." | 一般的なセッション動作が失敗しました。 |
| "Controller not valid for session." | 制御装置がこの接続には正しくありません。 |
| "No matching device found." | この接続に合致する装置が見つかりません。 |
| "Not authorized to object." | アクセス権限がありません。 |
| "Job canceled." | ジョブが中断されました。 |
| "Object partially damaged." | 装置が部分的に破損しています。 |
| "Communications error." | 一般的な通信エラーが発生しました。 |
| "Negative response received." | 否定応答を受信しました。 |
| "Start-up record built incorrectly." | 開始レコードが正しく作られていません。 |
| "Creation of device failed." | 装置の生成に失敗しました。 |
| "Change of device failed." | 装置の構成変更に失敗しました。 |
| "Vary on or vary off failed." | 装置の有効化・無効化に失敗しました。 |
| "Message queue does not exist." | 指定されたメッセージキューは存在しません。 |
| "Session rejected." | セッションは拒絶されました。 |
| "Security failure on session attempt." | セッション確立時にセキュリティ上の問題が発生しました。 |
| "Auto-config failed or not allowed." | 自動構成に失敗したか、あるいは許可されていません。 |

(空白ページ)

第2章 論理プリンター

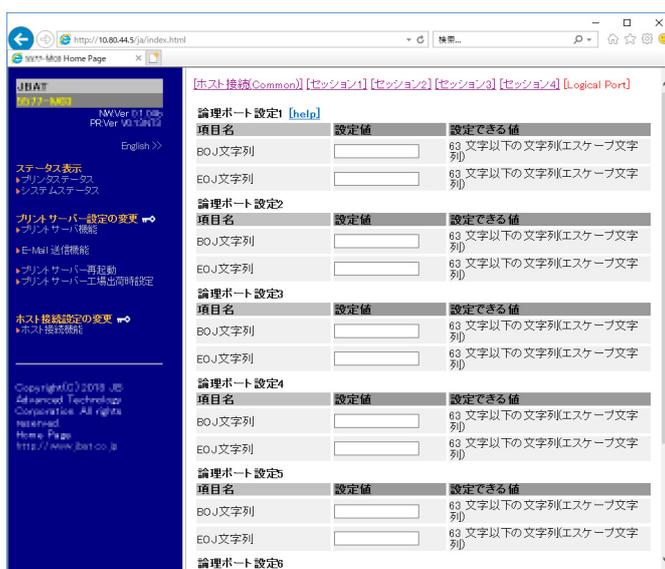
論理プリンター概要

論理プリンターとは、ネットワークと物理的なプリンターとの間に設定された仮想的なプリンターです。この機能を使うことで、たとえ物理的にはプリンターが1台しかなくても、6つまでの論理プリンターに各々別々の属性を与えて、場合に応じて使い分けることができます。

印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法

ここでは、各印刷ジョブ前後にプリンター制御コマンド等の文字列を送信する方法について解説します。この指定は、各論理プリンターで独立に行うことができます。全ての文字列は、16進数値で記述します。

1台のプリンターで複数種類の用紙に印刷する場合、各論理プリンターに対応するコマンドを設定しておけば、出力時に論理プリンターを切り換えるだけでそれらの印刷が可能になります。論理プリンターはlp1 ~ lp6があり、下図のようにBOJ文字列、EOJ文字列のパラメーターがあります。



以降で、用紙選択の設定例を説明します。

(1) 連続用紙 フロントトラクター選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x01¥x01

(2) 連続用紙 リアトラクター選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x01¥x02

(3) 単票用紙 手差し選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x02¥x00

(4) 単票用紙 フロントASF選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x02¥x01

(5) 単票用紙 リアASF選択

B0J文字列： ¥x1B¥x7E¥x10¥x00¥x02¥x02¥x02



- 制御コマンドについてはマニュアルを参照してください。通常の制御コマンドは「設置・操作ガイド」、5557拡張制御コマンドは、「5557拡張制御コマンド解説書」を参照してください。]
- 「¥」記号は、Webブラウザ上では「\」（バックスラッシュ）で表示されます。

第3章 ユーザーフォントの登録

本機能では、IBM i のユーザーフォントを4370文字まで登録できます。



- 登録できる文字のドットサイズは、縦24ドット×横24ドットのフォントで、縦24ドット×横27ドットのフォントは登録できません。
- プリンターに登録されたユーザーフォントは、インターフェース設定の初期化が実行されると削除されます。

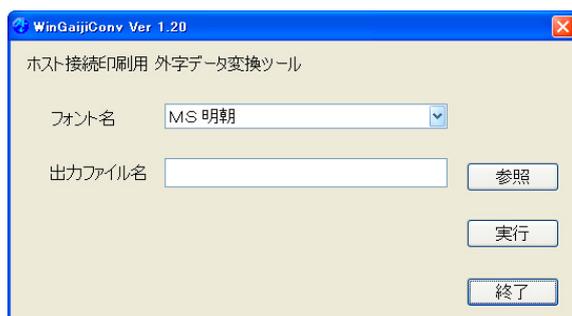
ユーザーフォント登録手順

1. ホストで使用するユーザーフォントが登録されているPC上で、ユーザーフォント変換ソフトウェア「WinGaijiConvA.exe」を起動します。



- PCのユーザーフォントのドットサイズは縦64ドット×横64ドットでデザインされていますが、本ツールにより縦24ドット×横24ドットに変換されてTN5250E機能に登録されます。

外字データ変換ツールウィンドウが開きます。



2. フォント名を選択します。



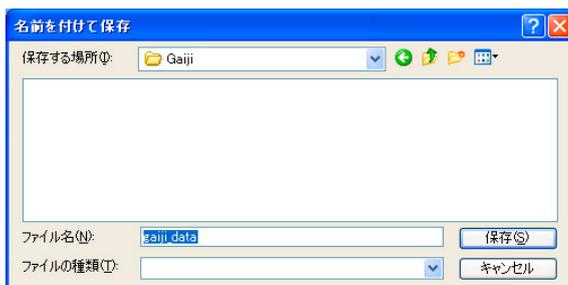
3. 出力するファイル名を指定します。
直接「出力ファイル名」に入力するか、「参照」をクリックします。



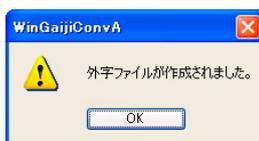
- ファイル名は任意で指定できます。ただし、ftpのputコマンドを実行する際は、ファイル名をすべて「gaiji_data (拡張子なし)」に変更する必要があります。



「参照」をクリックすると、選択画面が表示されます。



4. 外字データ変換ツールウィンドウに戻って、「実行」をクリックします。
作成終了のダイアログボックスが表示されたら「OK」をクリックします。



再度、外字データ変換ツールウィンドウに戻って「終了」をクリックし、外字データ変換ツールを終了します。

5. 「出力ファイル名」で指定したフォルダに、作成されたファイルがあることを確認します。
6. コマンドプロンプトを起動します。
ファイルを作成したフォルダに移動し、プリンターのFTPを起動し、
User : root
Password : (環境設定で設定した文字列。設定していない場合は入力する必要はありません)
でログインします。
7. 送付先の場所をcdコマンドで「gaiji」を指定します。
ftp> cd gaiji
8. binコマンドでバイナリ形式ファイルを指定します。
ftp> bin
9. 作成したユーザーフォントファイルをputコマンドで登録します。



- putコマンドで指定するファイル名は必ず「gaiji_data (拡張子なし)」としてください。違うファイル名を付けている場合は、ファイル名を「gaiji_data」に変更してからputコマンドを実行してください。

例) 指定フォルダ : C:¥work¥Gaiji
プリンターのIPアドレス : 10.80.44.5
の場合

```
命令 プロンプト
C:¥Documents and Settings¥User>cd ¥work¥Gaiji
C:¥work¥Gaiji>ftp 10.80.44.5
Connected to 10.80.44.5.
220 XXXXXXXX Ver 2.0.0 FTP server.
User (10.80.44.5:(none)): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp> cd gaiji
250 Command Ok.
ftp> bin
200 Type set to I.
ftp> put gaiji_data
200 PORT command Ok.
150 Open data connection.
226 Data connection closed.
ftp: 314648 bytes sent in 0.51Seconds 615.75Kbytes/sec.
ftp> quit
221 Quit.
```

8. ftpのプロンプトに戻ったら、quitコマンドでftpを終了します。



- ここで登録されたユーザーフォントは、プリンターのTN5250E機能でのみ使用できます。その他の印刷においては使用できません。
- 5250を選択したセッション1～4の設定の「機器登録外字の使用」は必ず「NO」に設定してください。

ホストからのユーザーフォント登録

ユーザーフォントは、IBM iのユーザーフォント登録機能 (LODPPW) を使ってプリンターに登録します。LODPPWの使用方法につきましては、リコージャパン株式会社のホームページにあるユーザー定義文字ダウンロード項目を参照してください。



- このプリンターに登録できるユーザーフォントは24ドット×24ドットのフォントのみです。また、登録できる文字数は4370文字までです。

ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する

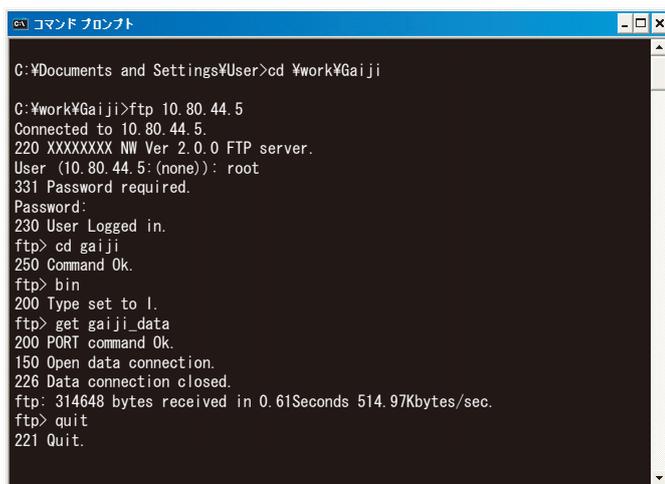
IBM i からプリンターにダウンロードされたユーザーフォントは、ファイルとして保管できます。このファイルを使用し、複数の同シリーズのプリンターへも登録できます。

1. コマンドプロンプトを起動します。
ファイルを保存したいフォルダに移動し、プリンターのFTPを起動し、
User : root
Password : (環境設定で設定した文字列。設定していない場合は入力する必要はありません)
でログインします。
2. 転送元を場所をcdコマンドで「gaiji」を指定します。
ftp> cd gaiji
3. binコマンドでバイナリ形式ファイルを指定します。
ftp> bin
4. 登録されたユーザーフォントをftpのgetコマンドで取得します。



- getコマンドで指定するファイル名は「gaiji_data (拡張子なし)」としてください。

例) 指定フォルダ : C:\work\Gaiji
プリンターのIPアドレス : 10.80.44.5
の場合



```
コマンド プロンプト
C:\Documents and Settings\User>cd %work%Gaiji
C:\work\Gaiji>ftp 10.80.44.5
Connected to 10.80.44.5.
220 XXXXXXXX NW Ver 2.0.0 FTP server.
User (10.80.44.5:(none)): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp> cd gaiji
250 Command Ok.
ftp> bin
200 Type set to I.
ftp> get gaiji_data
200 PORT command Ok.
150 Open data connection.
226 Data connection closed.
ftp: 314648 bytes received in 0.61Seconds 514.97Kbytes/sec.
ftp> quit
221 Quit.
```

5. ftpのプロンプトに戻ったら、quitでコマンドでftpを終了します。
6. 指定したフォルダ内にユーザーフォントファイル「gaiji_data」が格納されていることを確認します。
7. 前項「ユーザーフォント登録手順」6.の手順で、この「gaiji_data」ファイルを複数のプリンターに登録します。

JBCC株式会社

<http://www.jbcc.co.jp>